上田市文化財調査報告書第４６集

市　内　遺　跡

平成３年度市内遺跡試掘調査報告書

１９９２．３

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第４６集

市　内　遺　跡

平成３年度市内遺跡試掘調査報告書

１９９２．３

上田市教育委員会

例　　言

1　本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う、平成３年度市内遺跡詳細分布調査報告書である。

2　調査は、上田市教育委員会が塩入秀敏を調査団長として、上田市遺跡発掘調査団を組織し、調査を一部委託して実施した。なお、事務局は上田市教育委員会社会教育課が担当した。

3　調査は、１９９１年１０月１日から１９９２年３月２５日まで実施した。この間の調査は調査団の指導のもと、主に中沢徳士が担当した。

4　本調査にかかる資料は上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。

5　本書の編集発行は事務局が行った。

6　本調査に係る「上田市遺跡発掘調査団」の組織は次のとおりである。

顧　問　　五十嵐幹雄（日本考古学協会員、上田市文化財保護審議会委員）
〃　　岩佐今朝人（日本考古学協会員、上田小県誌考古編編纂副主任）
団　長　　塩入秀敏（日本考古学協会員、上田女子短期大学助教授）
副団長　　川　上　元（日本考古学協会員、上田市立博物館長）
調査員　　猪熊啓司（長野県長野高等学校教諭、上小考古学会員）
〃　　倉沢正幸（日本考古学協会員、上田市立信濃国分寺資料館学芸員）
〃　　中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田敦子（社会教育課文化係）
監　事　　久保浩美（上田市文化財保護審議会委員、元文化課文化財保護係長）
〃　　岩佐今朝人（前出）

7　本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

事務局長　須藤清彬（社会教育課長）
事務局次長　寺島隆史（社会教育課文化係長）
事務局員　中沢、尾見、塩崎、久保田（社会教育課文化係）

8　調査に参加・協力していただいた方々（順不同、敬称略）

竹内三郎、関茂樹、清水閲二、竹内和好、柴崎和美、柴崎仁志、市村みつ子、大井敬子、間島亥三郎、竹内勇、窪田早苗、甲田五夫

目　　次

1　序説
2　調査の結果
(1) 下大郷遺跡・西奈良尾遺跡・木皿遺跡　(2) 柿の木遺跡　(3) 大日の木遺跡　(4) 国分寺周辺遺跡群

第一章　序　　説

上田市は長野県の東部、いわゆる「東信地区」に所在する。市域のほぼ中央を東西に千曲川が流れ、北に太郎山塊、南に独鈷山塊、東に烏帽子山塊、西に飯縄山塊と四方を山々に囲まれた地域である。歴史的に見ると、古代には創置の信濃国府・信濃国分寺が、中世には信濃守護所が、近世には上田城と、常に長野県史の表舞台に立ち続けたところである。

一方、地下に残る埋蔵文化財についても、昭和46～48年にかけての分布調査により、４３０件余りの遺跡が登録された。ところが、この調査は、遺物の表面採取や聞き込みによるものであったため、遺跡の範囲や保存状況が正確さに欠け、発掘調査着手後に調査の計画変更を余儀無くされる事態が数多く生じ、文化財保護部局のみならず、開発主体者にも多大な迷惑を掛けるケースがしばしばであった。そうした折り、1998年長野冬季オリンピックの決定により、上信越自動車道や北陸新幹線の工期が急激に圧縮され、これに伴う各種の官・民の開発計画が目白押しの状態となった。そこで、上田市教育委員会ではこれらの開発に伴う遺跡の保護措置を講ずるため、平成３年度より国庫補助事業として、遺跡詳細分布調査「市内遺跡」を事業費８８０千円をもって実施する運びとなった。

開発の情報は、公営のものについては上田市の各担当部局から、民間のものについては上田市開発審査の合議により得た。そして、社会教育課職員が現地踏査を行い、調査の要があると判断されたものについて試掘調査を行った。

調査は、開発計画区域内に小型バックホーによりトレンチを入れ、その土層や遺構検出面、出土遺物の有無を確認し、これと地形の在り方を考え合わせ、開発区域内における遺跡の範囲を示すこととした。なお、事業地が未買収の場合は、事前の現地踏査により開発計画図にトレンチをいれる箇所を示し、現所有者の同意を開発主体者（主管課）に得てもらい調査を実施した。

本年度は県営畑地帯総合土地改良事業塩田地区に伴う「下大郷遺跡」・「西奈良尾遺跡」・「西馬場遺跡」、土地区画整理事業秋和柿の木地区に伴う「柿の木遺跡」、団体営土地改良総合整備事業大日の木地区に伴う「大日の木遺跡」、北陸新幹線代替地造成に伴う「国分寺周辺遺跡群」の計６遺跡について調査を実施し、結果は以下に述べるとおりである。

このうち、県営畑地帯総合土地改良事業塩田地区に伴う試掘調査では、施工区域内全体にトレンチを入れ、遺構の確認を見なかったものの、工事中に新たな遺跡（木皿遺跡）が発見され、急遽調査を余儀無くされた。

いずれも限られた予算と人員・期間の中での調査であるため、その内容についてはやや不十分な面もあるが、遺跡の保護措置を講ずる保護協議において、該当遺跡の範囲や性格について、開発主体者に対し、従前より明確な説明ができ、これにより理解を得られたこと、また、発掘調査の予算措置やスケジュール調整が事前にかなり突っ込んで行えることは、大きな成果であった。

第二章　調査の結果

（1）下大郷、西奈良尾遺跡

1　所　在　地　上田市大字富士山字下大郷及び字西奈良尾
2　原　　因　平成３年度県営畑地帯総合土地改良事業塩田地区施工に伴う標記遺跡の範囲確認調査
3　実　施　日　平成３年10月18日～19日、平成４年３月16日～25日
4　面　　積　幅０．５ｍのトレンチ１４本（長さは任意）
5　調査担当者　中沢徳士

遺跡の位置と経過

下大郷遺跡は『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会発行）によれば、上田市大字富士山字下大郷に所在し、南に隣接する郷土田遺跡と合わせて約20,000㎡の分布で、縄文中期の初頭型式・勝坂式・加曽利Ｅ式土器や、石鏃・打製石斧・石匙・凹石、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃、後期の土師・須恵器が出土していると報告されている。

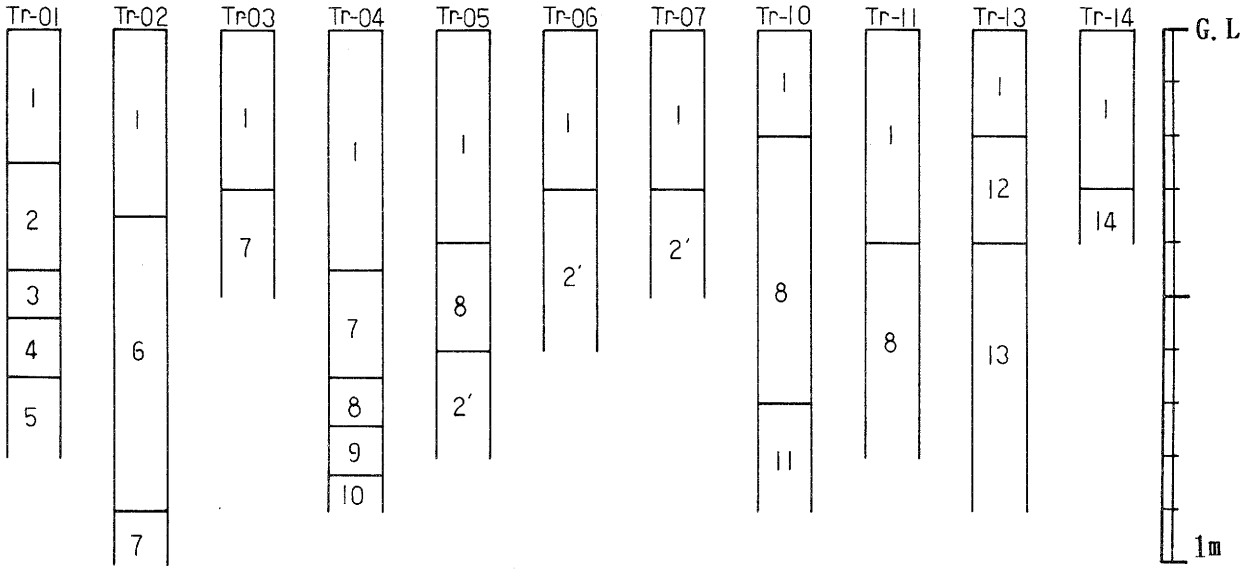
今回、平成３年度県営畑地帯総合土地改良事業塩田地区施工に伴い、事前に試掘調査を実施して遺跡の範囲・性格を確認し、遺跡の保護措置の資料とする必要が生じた。

調査の結果

調査は、地形や遺物の散布状態、原因事業の設計等を勘案して試掘トレンチを設定し、主にバックホーにより行った。その結果、石鏃の表採はＴｒ－３～４付近において７点ほどでき、またＴｒ－２からはローリングした縄文土器が数点出土したものの、遺物包含層や遺構は確認されなかった。これは、元来密度の薄い遺跡であったことに加え、当地は桑や朝鮮人参が盛んに栽培され、いわゆる土の「天地返し」が行われたこと、遺跡の西を流れる尾根川の氾濫が多かったこと（現在は治水事業で流れが下がっている）により、遺構がすでに破壊されているものと考えられる。

土層凡例

1　褐灰色小礫混耕作土	5　緑青色礫混砂質土	10　緑灰色粘質土
2　橙褐色砂質土	6　黒褐色弱粘質土	11　ローム砂質土
2´礫混橙褐色砂質土	7　褐灰色砂質土	12　灰橙色小礫混弱粘質土
3　赤橙色砂質土	8　黒色土粘質土	13　灰橙色礫混粘質土
4　青灰色礫混砂質土	9　黄橙色砂質土	14　灰橙色頭大礫混弱粘質土



下大郷・西奈良尾遺跡土層柱状図

付記（木皿遺跡）

平成４年３月１０日、道路施工箇所から縄文土器が出土しているとの連絡を受け、市教委ではさっそく県文化課・上小地方事務所・上田市農村整備課と連絡を取り、現況を視察、協議の上、道路敷を中心に遺跡の調査を実施することとした。調査は施工請負業者である窪田建設㈱の好意によりバックホーにより道路敷の表土を除き、この後調査員と作業員により調査を実施した。その結果、次の事柄が判明した。

①当該地点は何度かの押出しにより遺物包含層を幾つも持っていること。

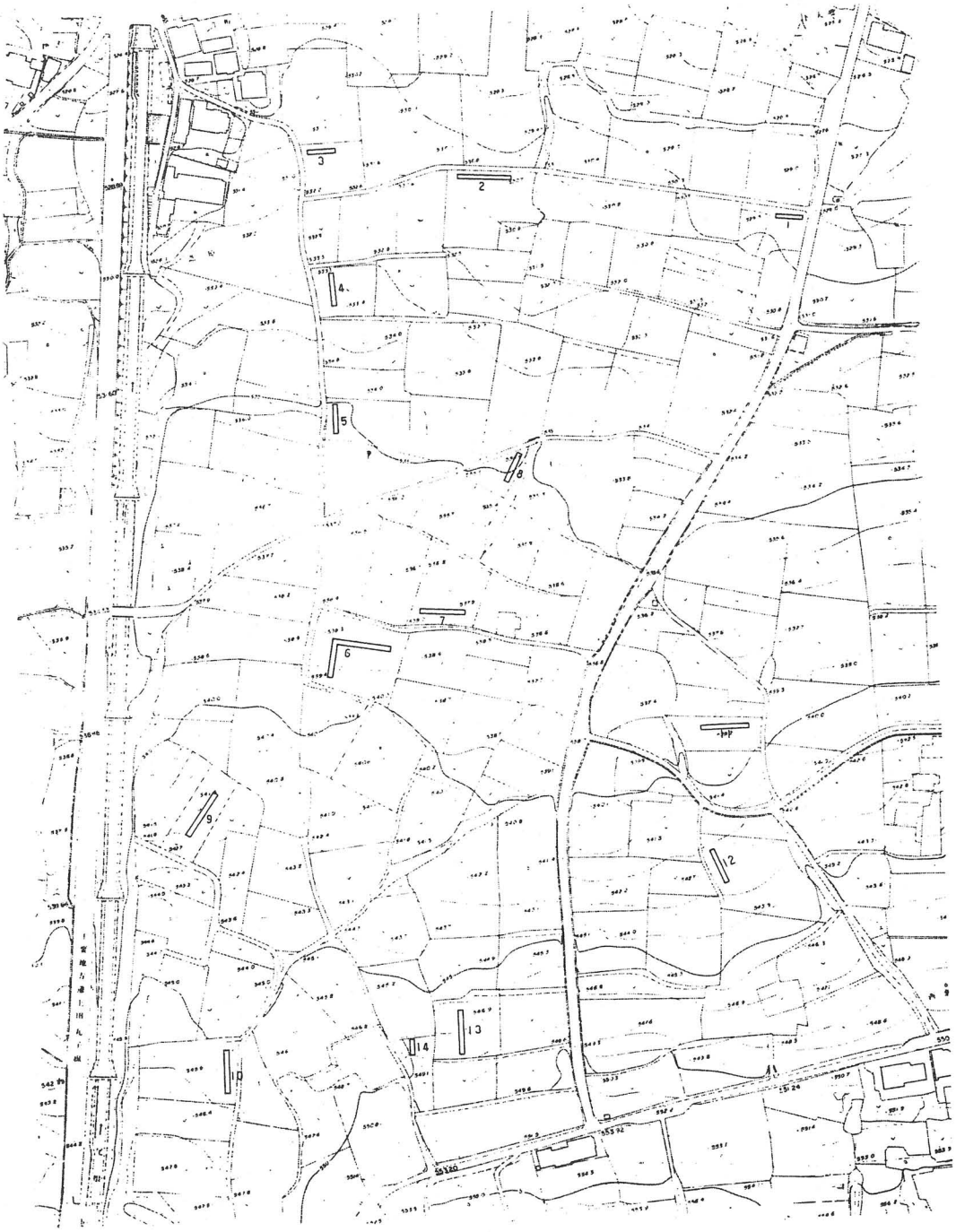
②調査地内を溝状遺構が南東から北東に斜めに横断をしていること。

③縄文後期のものと思われる土壙が調査地の北側より検出されたこと。

④出土した土器は縄文時代後期の土器がそのほとんどを占めていること。

⑤土壙に伴う土器以外は破片であり接合は困難であること。

これらのことにより、従来から下大郷遺跡と呼ばれていた遺跡とは出土遺物の時期に違いがみられ、下大郷遺跡の中心と思われる場所から少し離れた木皿地籍に存在する事から新たな遺跡であることが予想される。



平成３年度県営畑地帯総合土地改良事業塩田地区に伴う
遺跡確認調査トレンチ設定図

（２） 柿の木遺跡

１　所　在　地　上田市大字秋和字柿の木
２　原　　因　平成４年度土地区画整理事業柿の木地区施工に伴う標記遺跡の範囲確認調査
３　実　施　日　平成３年１１月１２日（火）
４　面　　積　幅０．５ｍのトレンチ１０本（長さは任意）
５　調査担当者　中沢徳士

遺跡の位置と経過

柿の木遺跡は『上小考古No. 21』（1977年上小考古学研究会発行）の遺跡紹介欄「柿の木遺跡」に、新発見の遺跡として当時上田市教育委員会職員の林和男氏によって紹介されている。これによれば、1976年４月に市道秋和上堀線と国道18号線の交差する地点の南東側の段丘裾で水田への農道取り付け工事の際に、古墳時代中期の土師器と住居跡の一部が検出されている。報文でも記されているように、該地は千曲川の氾濫原と段丘裾の境に位置し、従来は遺跡の存在が想定され得ない地域であった。一方、上田城尼ケ淵では切り立った断崖で、十数ｍを図る段丘と氾濫源との比高差も、該地では比高差２ｍ程度の南面するスロープ状となり、改めて観察すると遺跡の存在も「無きにしも非ず」、の地である。

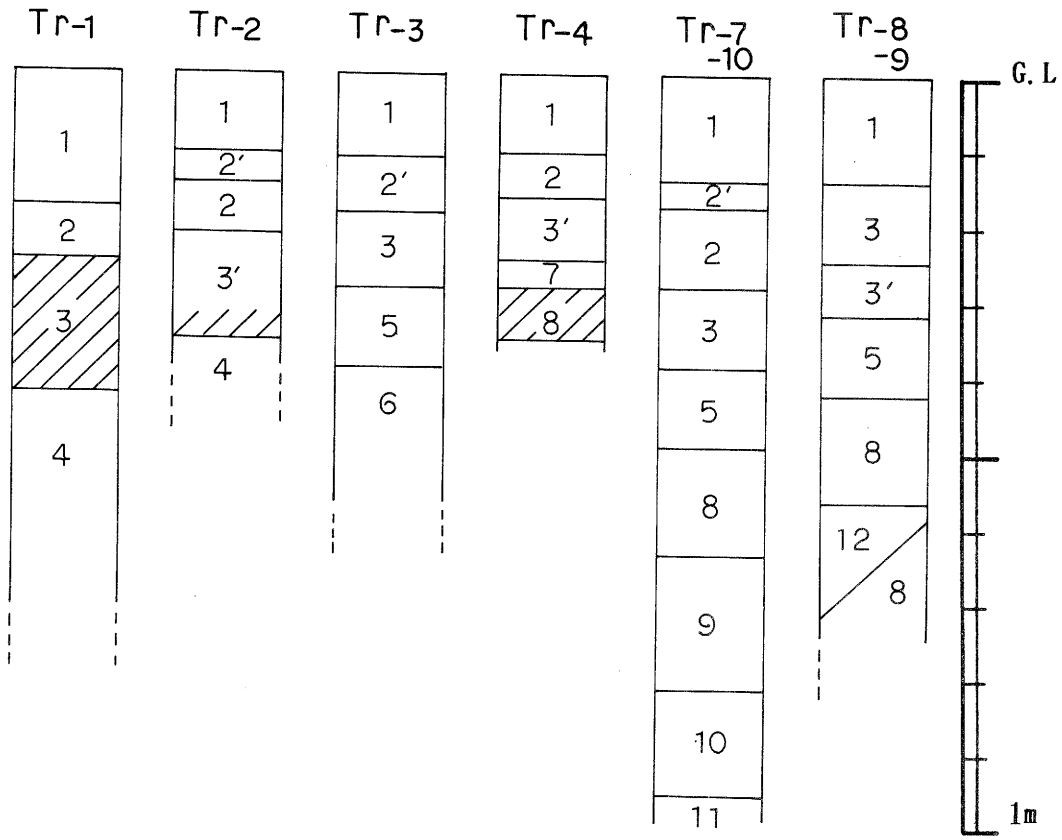
今回、平成４年度土地区画整理事業柿の木地区施工に伴い、事前に試掘調査を実施して遺跡の範囲・性格を確認し、遺跡の保護措置の資料とする必要が生じた。

調査の結果

調査は、地形や上記報告等を勘案して試掘トレンチを設定し、主にバックホーにより行った。その結果、Tr-1,2,4付近において纏まった量の古墳時代中期の土師器が出土した。遺物包含層は地表より30～40㎝下の黄灰色、もしくは褐灰色の砂質土層において形成され、その厚さは10～25㎝を計り、この層を剥ぐと遺構が検出される。残念ながら、今回の調査ではトレンチの幅が狭かったため、明確な遺構の検出はできなかった。

この他、最も標高が下がるTr-3は湿地帯の様相を呈し、地表下50㎝には、繊維質の植物の腐敗した層が良好な状態で出ている。Tr-7~10は砂質の層が厚く形成され、比高も僅かに高く、中洲的な様相を呈する。

以上の結果から、柿の木遺跡は事業区域の中央を流れる升網用水より以北で、現在北信セメント社用地から西の、段丘上から裾にかけて展開しているものと思われる。さらに、事業範囲からは外れるものの、Tr-1,2,4の北側段丘上には土師・須恵等の遺物が散布し、あるいは従前の分布調査によって知られていた「姥石遺跡」と一体の遺跡である可能性も示す。

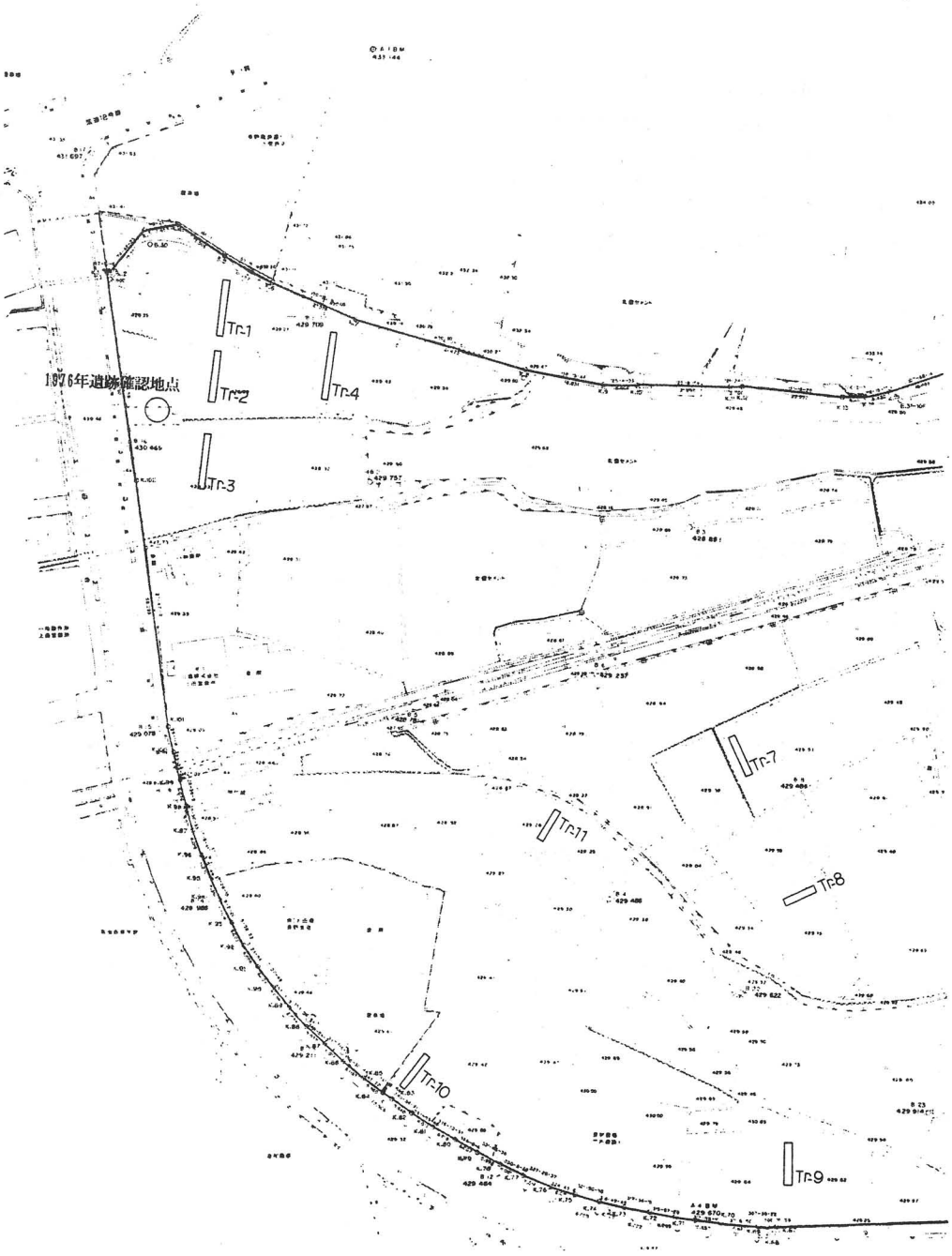


土層凡例

1	耕作土層	4	灰橙色砂質土層	9	黒色砂質土層
2	灰橙色溶脱層	5	強粘質砂礫土層	10	黄灰色粘質土層
2´	橙色溶脱層	6	繊維質植物腐敗層	11	礫層
3	黄灰色砂質土層	7	黄橙灰色砂質土層	12	灰色砂質土層
3´	青灰色礫混砂質土	8	褐灰色弱粘質砂質土層		

柿の木遺跡土層柱状図

柿の木遺跡分布図



平成４年度土地区画整理事業柿の木地区に伴う
遺跡確認調査トレンチ設定図

（３） 大日ノ木遺跡

１　所　在　地　上田市大字芳田字大日ノ木
２　原　．　因　平成４年度団体営土地改良総合整備事業大日ノ木地区
３　実　施　日　平成３年１１月２１（木）～２２日（金）
４　面　　積　幅０．５ｍのトレンチ１３本（長さは任意）
５　調査担当者　中沢徳士・尾見智志

遺跡の位置と経過

大日ノ木遺跡は上田市の東部、豊里地区に所在する。『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会発行）に、木ノ上遺跡、大木遺跡、大日ノ木遺跡の３遺跡として記述されている。今回調査したのはその内の大木遺跡の範囲で、記述では、「行沢川扇状地の扇頂部に位置し、大日霊神社の周辺畑地が遺跡である。包蔵地の範囲はおよそけ8,000㎡で、縄文中期の勝坂式土器・石鏃・打製石斧・石匙・擦石・凹石、弥生後期の箱清水式の土器片、土師後期の坏・かめの破片など、多様な遺物が出土している。」とある。

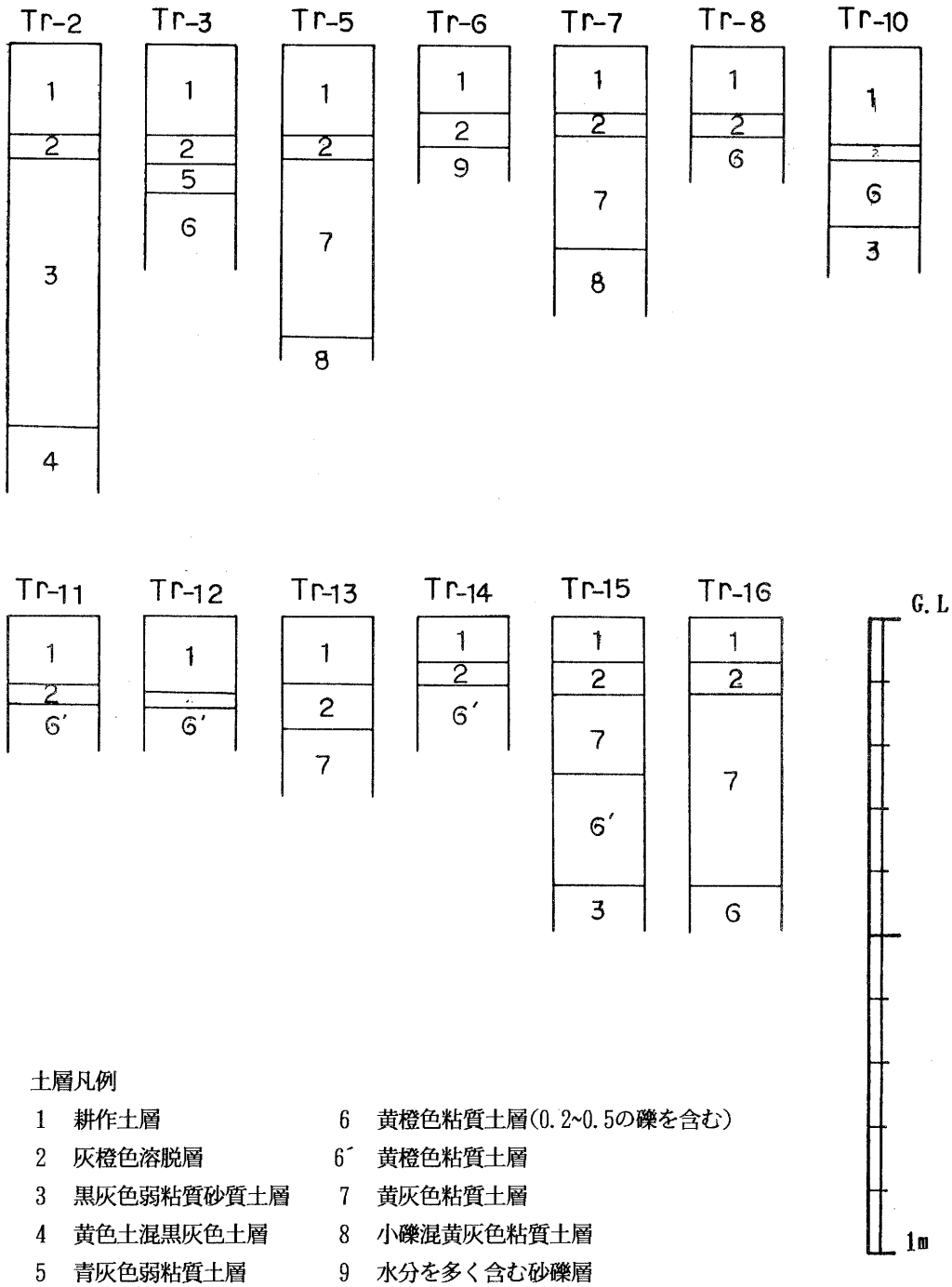
今回、平成４年度団体営土地改良総合整備事業大日ノ木地区の施工に伴い、事前に試掘調査を実施して遺跡の範囲・性格を確認し、遺跡の保護措置の資料とする必要が生じた。

調査の結果

調査は、地形や上記報告等を勘案して試掘トレンチを設定し、主にバックホーにより行った。その結果、Tr-9付近において黒耀石のフレークや、土師器片が多く表採できるものの、いずれのトレンチからも出土遺物がなく、遺物包含層もしくは遺構検出面の確認はできなかった。

当地は比較的急峻な傾斜地に段々に田畑が造成されており、この際に遺構のほとんどが破壊を受けているものと考えられる。

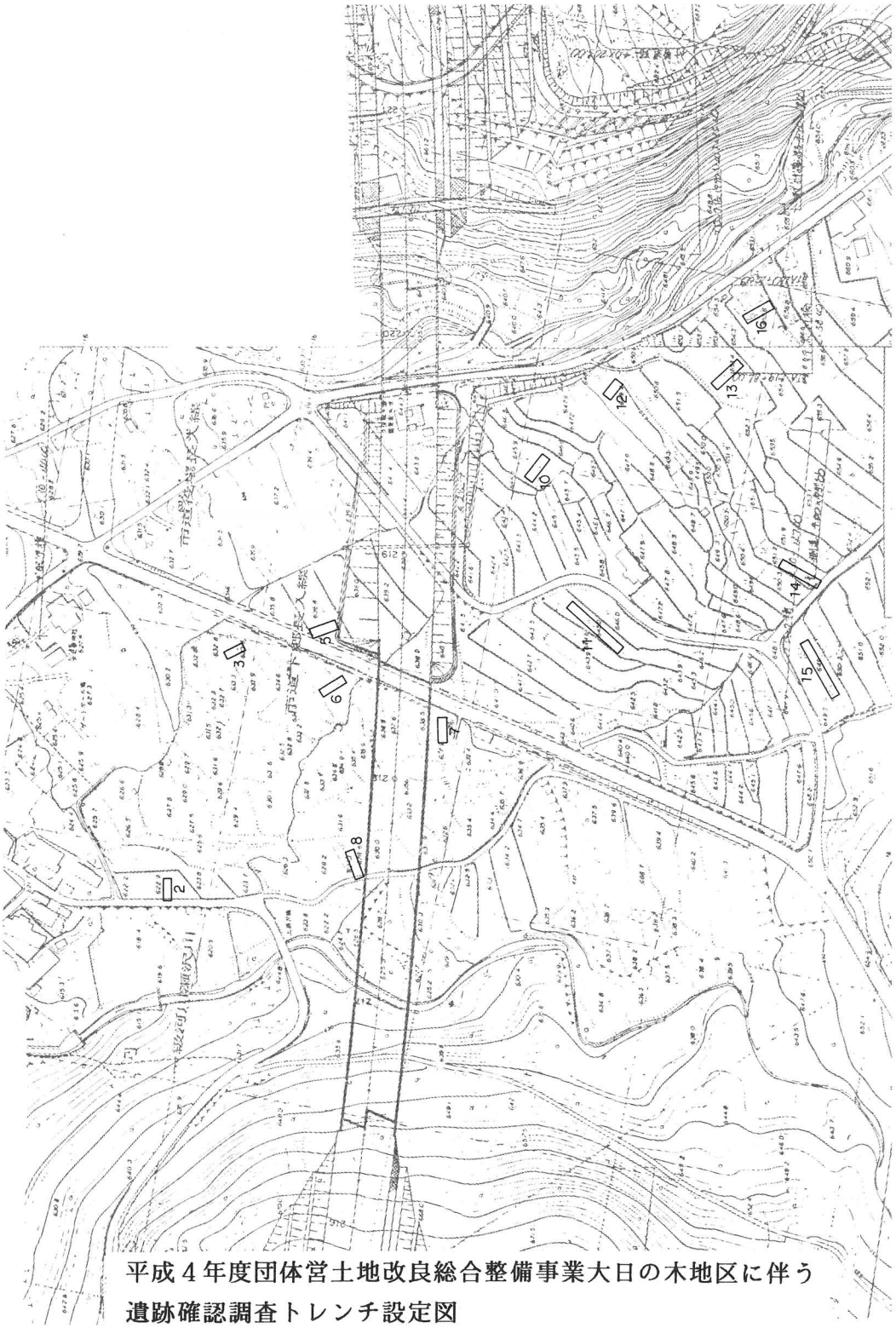
以上の結果から、大日ノ木遺跡はかつては地下に存在していたものの、この地の開拓により壊滅的な破壊を受け、遺物は採取できるものの遺構が残っていない遺跡であるとの結論に達した。



土層凡例

1	耕作土層	6	黄橙色粘質土層(0.2~0.5の礫を含む)
2	灰橙色溶脱層	6´	黄橙色粘質土層
3	黒灰色弱粘質砂質土層	7	黄灰色粘質土層
4	黄色土混黒灰色土層	8	小礫混黄灰色粘質土層
5	青灰色弱粘質土層	9	水分を多く含む砂礫層

大日の木遺跡土層柱状図



平成４年度団体営土地改良総合整備事業大日の木地区に伴う
遺跡確認調査トレンチ設定図

（４）国分寺周辺遺跡群

１　所　在　地　上田市大字国分字堀東沖
２　原　　因　平成４年度北陸新幹線代替地造成に伴う標記遺跡の範囲確認調査
３　実　施　日　平成３年１２月５日（木）～６日（金）
４　面　　積　幅０．５ｍのトレンチ１０本（長さは任意）
５　調査担当者　中沢徳士
６　調 査 指 導　長野県教育委員会文化課小松指導主事

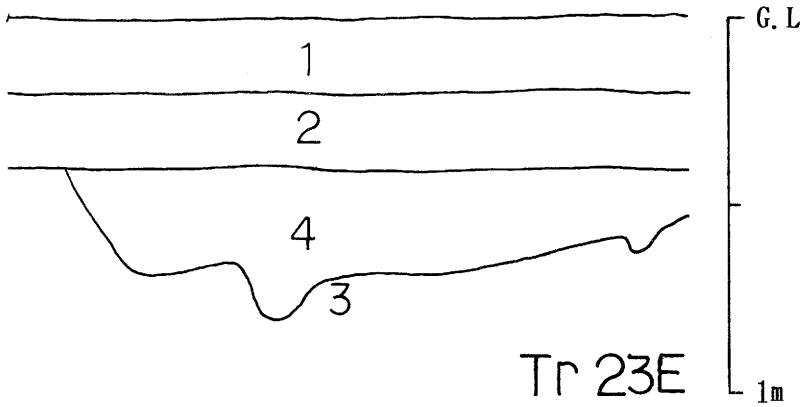
遺跡の位置と経過

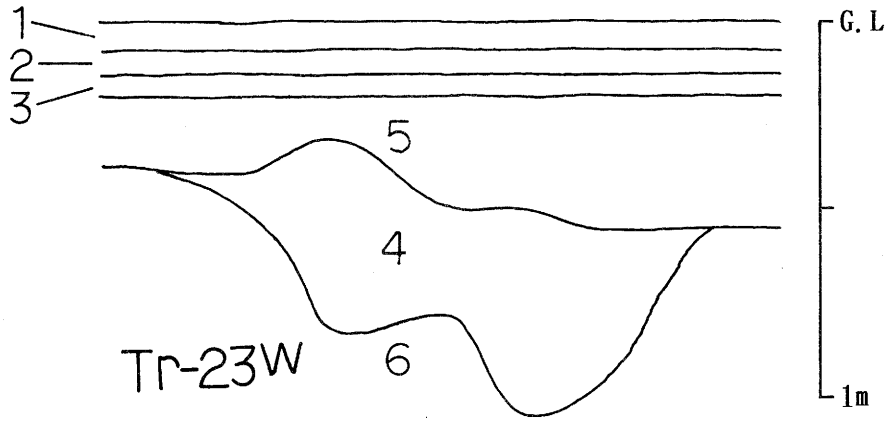
国分寺周辺遺跡群は『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会発行）に記されている、「浦沖遺跡」「前田遺跡」「仁王堂遺跡」「明神前遺跡」「堀遺跡」「西沖遺跡」の６遺跡の総称で、今回調査したのはこの中の字堀東沖で、国分僧寺の南の段丘下部である。

今回、平成４年度北陸新幹線代替地造成に伴い、事前に試掘調査を実施して遺跡の範囲・性格を確認し、遺跡の保護措置の資料とする必要が生じた。

調査の結果

調査は、地形や上記報告等を勘案して試掘トレンチを設定し、主にバックホーにより行った。その結果、Tr-23Aにおいて２条の、Tr-23Bにおいて１条の溝址が確認された。出土遺物がなかったため、時期の判断はできなかったが、G．L－30～40cmの頭から拳大の礫混りの砂層に幅１５０～２００cm、深さ30～40cmの断面は不整形の溝である。この他のトレンチでは、Tr-30においてごく僅かな土師器片が出土したほか、遺構・遺物の検出はなかった。





土層凡例

1　耕作土層

2　灰橙色溶脱層

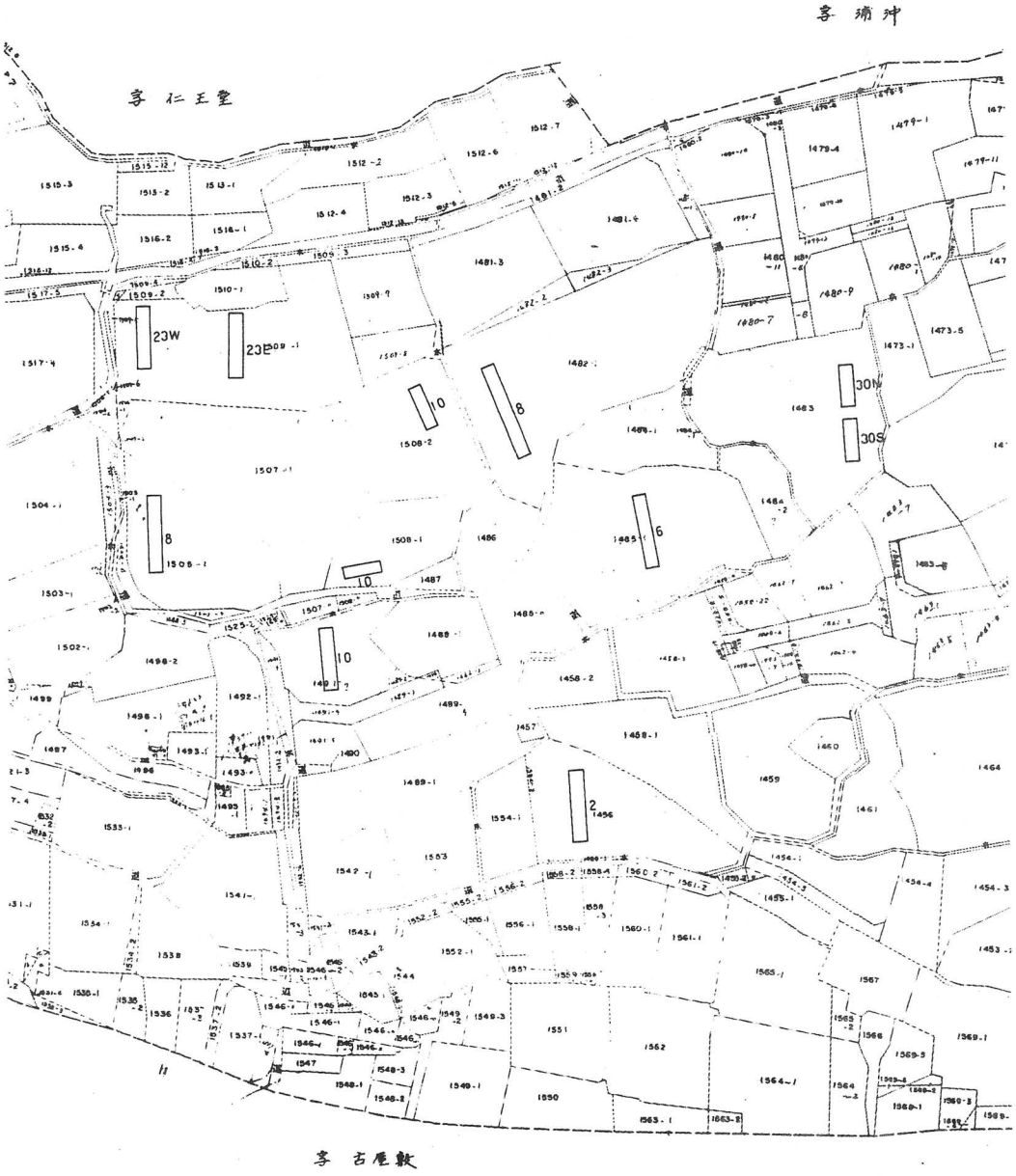
3　橙色砂礫層

4　黒灰色砂質土層

5　礫混黒灰色弱粘質土層

6　頭～拳大礫混砂層

国分寺周辺遺跡群Ｔｒ－２３Ｅ、Ｔｒ－２３Ｗ土層図



平成４年度新幹線住宅代替地造成事業に伴う
遺跡確認調査トレンチ設定図

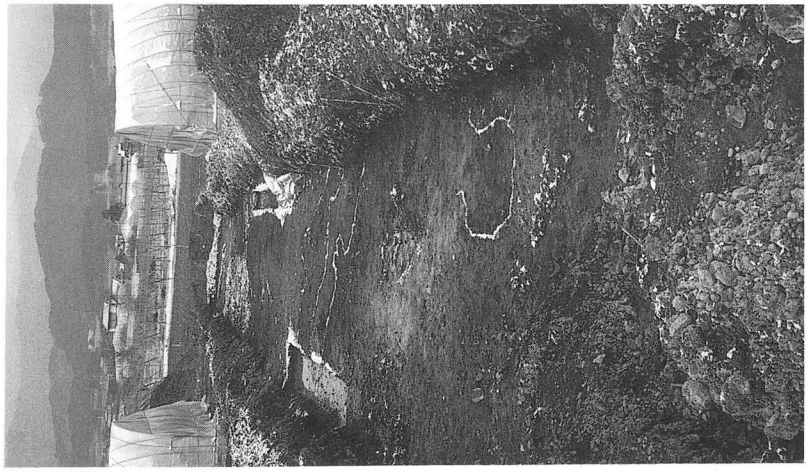
木皿遺跡調査前

西奈良尾遺跡
トレンチ調査

下大郷遺跡
トレンチ調査

木皿遺跡調査

木皿遺跡
土器出土



木皿遺跡
調査終了

柿の木遺跡

柿の木遺跡
トレンチ土層

大日の木遺跡調査

大日の木遺跡調査

国分寺周辺遺跡
保護協議

国分寺周辺遺跡
トレンチ調査